



感性を大切に

校長 小川 泰文

夏の季節 逆にかけるよ 厚い布団

5年生の廊下に俳句が掲示されていました。楽しかった一日を想い、すやすや眠っているのでしょうか。微笑ましい一場面を想像してしまう表現に感心です。

2年生は野菜栽培に熱中しています。毎朝たっぷり水をあげた後は、実や花、茎の隅々を観察し、昨日との違いを見付けます。ある子の絵日記の一部です。

「今日は、はっしゅうかくしました。色はみどりで、形はすうじの1みたいでした。」
数字に例えたまっすぐなキュウリの味は最高だったようです。

6年生は修学旅行に行ってきました。ある子の感想の一部に次の記述がありました。

「竹や海、木がいろんなところにあり、佐渡の自然はいいなと思いました。」

移動中、バスの窓から外を眺めた景色は、地元の人にとっては見慣れたものでも、この子にとっては新鮮だったのでしょう。

子どもたちは敏感に感じる眼を持っています。感受性が豊かです。そして、紹介した子どもたちは感じたことを表現する感性が豊かです。

家庭や学校には子どもたちの感性を育む体験が随所にあります。見たり、聞いたり、試したり、様々な体験をとおして子どもたちは感じ方を研ぎ澄ましていきます。こうした体験が人間形成には大変重要です。

感性はセンスとも言えます。子どもたちの感性を育むことは、センスの良い子を育てること。そして、大人が「キュウリの花ってどんな形してる?」「あの景色見てごらん」など、様々な言葉掛けで子どもにかかわっていききたいものです。

しかしながら、子どもたちの姿とは対照に、大人になるにつれて感性の衰えのようなものを実感してしまいます。いろんなことが当たり前のようになり、子どもの頃のように感激できなくなっているのではないかと。大人が自らの感性を錆び付かせないことが、子どもの感性を育てることに最も大切ではないかと自問します。

「センス・オブ・ワンダー」はレイチェルカーソンの著書です。意味は、「自然など、自分が目にしたのや触れたものに神秘さや不思議さを感じ、驚いたり感動したりする感性のこと」とあります。そして、「子どもが出会った事実の一つ一つがやがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、様々な情緒や感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代はこの土壌を耕すときなのです。」との一節があります。

季節は夏。水泳の学習も始まり、一層子どもたちが元気になっていきます。自然と触れ合う機会も増す季節。子どもたちとともに、驚いたり感動したりしながら、夏を乗り切っていきましょう。

いじめ見逃しゼロスクール集会・学習参観

ご来校ありがとうございました。

6月10日（火）、2回目の学習参観を実施しました。今年の学習参観では、いじめ見逃しゼロスクール集会と、各学年の学習活動をご覧いただきました。

いじめ見逃しゼロスクール集会では、それぞれの学年が、「いじめをしない・させない」ための作戦を発表しました。「自分から挨拶をする、挨拶を返す」「毎日友達をほめる」等の、クラスの絆を深めるための作戦がたくさん発表されました。最後に、全校児童で「友達はいいいもんだ」を斉唱して、気持ちを1つにしました。



各教室で行われた学習参観では、ゲストティーチャーを招いた食育、作戦やコツを話し合いながら行う体育、タブレットを使って発表する外国語など、様々な学習が行われました。頑張る姿を保護者の皆様に見ただけで、子どもたちも嬉しそうでした。ありがとうございました。



なお、次回の学習参観は、9月19日（金）の5限（13：45～14：30）を予定しています。詳細につきましては、後日お知らせいたします。

避難訓練・防災教室を行いました。

6月13日（金）に、避難訓練と防災教室を行いました。

前半は「震度6強の大地震が休み時間に起こったら」という想定で避難訓練を行いました。崩落で階段が通れなかったり、避難している時に余震が起こったりと、様々な状況を設定しましたが、その都度、子どもたちは自分で考えて行動し、安全に避難をすることができました。

後半の「親子防災教室」では、燕市危機管理監の十河氏を講師に迎え、実際の地震発生時における注意することや行動のポイントなど、写真を使って具体的に指導いただきました。「自分の命は自分で守る」。そのために大切なことを学ぶことができました。

